



作成日：2014/04/01

改訂日：2016/06/01

安全データシート

1. 化学物質等及び会社情報

| | |
|--------------|--|
| 製品名 | CoralHue [®] monomeric Keima-Red (pmKeima-Red-S1) |
| 製品コード | AM-V0091M |
| 製造会社 | 株式会社医学生物学研究所 |
| 販売会社 | 会社名 住所 株式会社医学生物学研究所 〒460-0008 名古屋市中区栄四丁目5番3号 |
| | 担当部門 電話番号 FAX番号 メールアドレス SDSサポート 052-238-1901 052-238-1440 sds-support@mbl.co.jp |
| 推奨用途及び使用上の制限 | 研究用 |

2. 危険有害性の要約

| | |
|-------------|--------------------|
| GHS分類 | 分類できない。 |
| 危険有害性情報 | |
| 健康有害性 | 分類基準に該当しない。 |
| 環境有害性 | 分類基準に該当しない。 |
| 物理的及び化学的危険性 | 通常の取扱いでは火災の危険性はない。 |

3. 組成及び成分情報

| | |
|----------------|--------------------------|
| 単一物質／混合物の区別 | 混合物 |
| 成分(危険有害物質) | 危険有害物質の含有なし、又は濃度限界未達である。 |
| 濃度又は濃度範囲 | 該当しない。 |
| 化学名又は一般名 | 該当しない。 |
| 別名 | 該当しない。 |
| 化学特性(示性式又は構造式) | 該当しない。 |

4. 応急措置

| | |
|-----------|---|
| 皮膚に付着した場合 | 水と石鹼で洗うこと。皮膚刺激が生じた場合は、医師の診断、手当てを受けること。 |
| 眼に入った場合 | 水で数分間注意深く洗うこと。眼の刺激が持続する場合は、医師の診断、手当てを受けること。 |
| 飲み込んだ場合 | 口をすすぐこと。気分が悪い時は、医師に連絡すること。 |

5. 火災時の措置

| | |
|-----|------------------------|
| 消火剤 | 周辺火災の種類に応じて適切な消火剤を用いる。 |
|-----|------------------------|

6. 漏出時の措置

| | |
|-----------------------------|---|
| 人体に対する注意事項、保護具および緊急措置 | 暴露防止のための保護具(保護衣、手袋、ゴーグル、マスクなど)を着用して作業を行い、接触を避ける。 |
| 封じ込め及び浄化方法・機材 環境に対する注意事項 | 不燃性吸収材で回収し、汚染場所及び周囲を水で洗い流す。 漏出した製品および汚染された排水が適切に処理されずに河川等の環境へ排出しないように注意する。 |
| 二次災害の防止策 | 特別な対策を必要としない。 |

7. 取扱い及び保管上の注意

| | | |
|-----|----------------|---|
| 取扱い | 安全取扱い注意事項 | 吸い込んだり、眼、皮膚及び衣類に触れないように、適切な保護具を着用する。本品を使用する際には、一般的な注意事項に従うこと。 |
| 保管 | 混触危険物質 保管条件 | 特になし。 直射日光を避け、容器を密閉して保存する。 |

8. 暴露防止及び保護措置

| | | |
|----------------------|-----------|--|
| 管理濃度 | | 設定されていない。 |
| 許容濃度(暴露限界値、生物学的暴露指標) | | 設定されていない。 |
| OSHA(米国労働安全衛生局) | | 設定されていない。 |
| ACGIH(米国産業衛生専門家会議) | | 設定されていない。 |
| 日本産衛学会(2007年版) | | 設定されていない。 |
| 保護具 | 呼吸器の保護 | 通常の使用条件下では呼吸保護具は必要ない。 |
| | 手の保護 | 適切な化学薬品耐性の保護手袋を着用する。 |
| | 眼の保護 | 必要があれば、適切な保護眼鏡を着用する。 |
| | 皮膚及び身体の保護 | 適切な保護衣を着用すること。 |
| 衛生対策 | | この製品を使用する時に、飲食又は喫煙をしない。取扱い後はよく手を洗う。汚染された作業衣は作業場から出さない。 |

9. 物理的及び化学的性質

| | | |
|--------------|----|-------------------|
| 物理的状态 | 形状 | 固体(粉末または容器表面に固相化) |
| | 色 | 白色 |
| | 臭い | ほぼ無臭 |
| | pH | 情報なし。 |
| 融点・凝固点 | | 情報なし。 |
| 沸点、初留点及び沸騰範囲 | | 情報なし。 |
| 引火点 | | 引火せず。 |
| 溶解度 | | 水に易溶(粉末の場合)。 |
| オクタノール・水分係数 | | 情報なし。 |
| 分解温度 | | 情報なし。 |
| 粘度 | | 情報なし。 |

10. 安定性及び反応性

| | |
|------------|--------------------|
| 安定性 | 通常の取り扱いにおいては安定である。 |
| 危険有害反応可能性 | 情報なし。 |
| 避けるべき条件 | 日光、熱、湿気 |
| 混触危険物質 | 情報なし。 |
| 危険有害な分解生成物 | 情報なし。 |

11. 有害性情報

| | |
|-------|---------|
| 化学成分名 | 該当成分なし。 |
|-------|---------|

12. 環境影響情報

| | |
|---------|--------|
| 生物蓄積性 | 該当しない。 |
| 生態毒性 | 該当しない。 |
| 残留性と分解性 | 該当しない。 |

13. 廃棄上の注意

| | |
|----------|---|
| 残余廃棄物 | 廃棄の前に、可能な限り無害化・安定化等の処理を行って危険有害性のレベルを低い状態にする。法令に従って廃棄する。 |
| 汚染容器及び包装 | 容器は水で十分に洗浄し、法令に従って適切に処分する。 |

14. 輸送上の注意

| | | |
|------|--------|---|
| 国際規制 | 国連分類 | 該当しない。 |
| | 国連番号 | 該当しない。 |
| | 海洋汚染物質 | 該当しない。 |
| 国内規制 | | 該当しない。 |
| 注意事項 | | 運搬に際しては容器に漏れないことを確かめ、転倒、落下、損傷がないよう積み込み、荷崩れの防止を確実に起こす。 |

15. 適用法令

| | |
|-----------------------|--------|
| 消防法 | 該当しない。 |
| 毒物及び劇物取締法 | 該当しない。 |
| 労働安全衛生法 | 該当しない。 |
| 化学物質排出把握管理促進法(PRTR法) | 該当しない。 |
| 化学物質の審査及び製造等の規制に関する法律 | 該当しない。 |

16. その他の情報

| | |
|------|---|
| 参考文献 | 1. 毒劇物基準関係通知集改訂増補版(厚生省薬務局安全課監修)、薬務広報社(1991) |
|------|---|

2. 危険物データブック(東京消防庁警防研究会監修)、丸善株式会社(1988)
3. Registry of Toxic Effects of Chemical Substances NIOSH(2006)
4. 製品評価技術基盤機構 <http://www.safe.nite.go.jp/ghs/list.html>
5. 日本産業衛生学会(2007)
6. ACGIH(米国産業衛生専門家会議)(2010)
7. 国内法規制データベース、日本ケミカルデータベース株式会社(2011)

その他

安全データシートの記載内容は、一般に入手可能な情報(および製品導入元からの情報)に基づいて作成していますが、現時点における化学又は技術に関する全ての情報が検討されているわけではありませんので、いかなる保証をなすものではありません。また、注意事項は、通常の取り扱いを対象としたものであり、特殊な取り扱いの場合には、別途のご配慮をお願い致します。

安全データシート(SDS)フォーマット等の著作権は、株式会社医学生物学研究所に帰属し、流用を禁じます。